HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	司法面接が出来事の報告に及ぼす影響［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	井上, 愛弓
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第11179号
Issue Date	2014-03-25
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/55567
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Ayumi_Inoue_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　　氏名：井上　愛弓

審査委員　主査　教　授　仲　　真紀子
副査　教　授　安達　真由美
副査　教　授　平澤　和司

学位論文題名

司法面接が出来事の報告に及ぼす影響

事件や事故に遭遇したとされる子どもから事情を正確に聴取することは，問題を解決するためにも，後の予防のためにも重要である。しかし，言語能力や認知能力が発達途上にある子どもは誘導や暗示にかかりやすく，適切な事情聴取を行うことは容易ではない。このような制約を乗り越えるために，欧米では司法面接（Forensic Interview：以下 FI とする）と呼ばれる面接法が開発されてきた。本研究は日本人を対象とし，心理学実験の手法により FI の効果を調べたものである。また，実務において重要な課題だとされる，面接の繰り返しについても検討した。

以下，当該研究領域における本論文の研究成果について本審査委員会の評価を述べ，その上で審査結果を述べる。

１）当該研究領域における本論文の研究成果

本研究の成果として，以下の 3 点を挙げることができる。

第一に，多くの参加者を用い，統制された実験によって日本語における FI の効果を検討したことが挙げられる。一般に自発的な報告や語りが少ないとされるアジア圏で，欧米と同様の効果が得られることを示した意義は大きい。

第 2 に，報告の量のみならず，正確性を検討したことが挙げられる。先行研究の多くが，情報量に焦点を当てていたが，本研究では FI の効果を正確性の面でも支持する結果を得た。このことは，国際的にも面接研究に貢献し得る成果である。

第 3 に，現場では面接が繰り返されることが多いという現状を踏まえ，面接の繰り返しの効果を検討したことが挙げられる。その結果，面接法によらず，面接を繰り返すと誤りは増加すること，ただし，FI は 1 回だけでも多くの情報が得られること，2 回にわたって共通に想起される項目については正確性が高いことなどが示された。

２）学位授与に関する委員会の所見

以上のことを踏まえ，本審査委員会では全員が一致して，博士（文学）の学位を授与するにふさわしいとの結論に達した。